

放射線管理手帳の年月日記入方法について
(事業者用)

平成 30 年 12 月

公益財団法人 放射線影響協会
放射線従事者中央登録センター

目 次

1. 年月日記入の原則.....	1
2. 手書きによる放射線管理手帳の記入方法.....	2
A. 個人識別項目の記入例	2
D. 個人識別項目の記入例	3
E. 被ばく前歴の記入例.....	4
F. 健康診断および事業者による従事者指定・解除の記入例.....	5
G. 被ばく歴および原子力等施設での従事者指定・解除の記入例	6
H. 放射線防護教育歴の記入例	7
I. 備考の記入例.....	8
3. 自動記帳機による放射線管理手帳の記入方法	9
A. 個人識別項目の記入例	9
D. 個人識別項目の記入例	10
E. 被ばく前歴の記入例.....	11
F. 健康診断および事業者による従事者指定・解除の記入例.....	12
G. 被ばく歴および原子力等施設での従事者指定・解除の記入例	13
H. 放射線防護教育歴の記入例	14
I. 備考の記入例.....	15

1. 年月日記入の原則

(1)2019年(平成31年)3月31日以前に新規／継続／再発行の手帳

- ① 2019年(平成31年)3月31日以前に発生した事項の年月日は従来通り「和暦」で記入する。
- ② 2019年(平成31年)4月1日以降の発生事項は「西暦(年4桁)」で記入する。
- ③ 自動記帳機使用の場合には、平成30年度の発生事項を2019年(平成31年)4月以降に記入する場合及び2019年(平成31年)4月1日～30日の発生事項は、「和暦」、「西暦(年4桁)」のどちらでも記入可能とする。

(2)2019年(平成31年)4月1日以降に新規／継続／再発行の手帳

- ① 過去の事項も含め全ての年月日を「西暦(年4桁)」で記入する。但し、E欄の「a.本手帳発行前年度までの個人線量の記録」(昭和63年度以前)については、「和暦」で記入する。
- ② この際、A欄、E欄及びG欄に印刷されている「昭和」、「平成」の文字は、二重線で抹消しなくとも良い。
- ③ 自動記帳機使用の場合には、2019年(平成31年)4月1日～30日の発生事項は、「和暦」、「西暦(年4桁)」のどちらでも記入可能とする。

(3)西暦の記入について

- ① 西暦(年4桁)の年月日を記入する際は、年月日をドットで区切って記入・印字するか、又は、年月日をドットで区切らずに連続する8桁で記入・印字する。(例:2019年4月1日は「2019.4.1」若しくは「2019.04.01」又は「20190401」)
- ② 自動記帳機で「西暦(年4桁)」を印字する際、E欄に印刷されている「昭和・平成」の文字に西暦の1～2桁が重なる場合があるが、そのまま印字して良い。

(4)改訂手帳

手帳の販売会社に在庫がなくなった時点で、A欄、E欄、G欄の「昭和」、「平成」の文字が印刷されていない手帳(一部の箇所には「西暦」の文字を印刷)を販売する。(2019年度上期中)

なお、E欄の「a.本手帳発行前年度までの個人線量の記録」(昭和63年度以前)については、現行通り「和暦」記入の運用を継続するため「昭和・平成」が印刷されている。

2. 手書きによる放射線管理手帳の記入方法

A. 個人識別項目の記入例

※2019年(平成31年)4月1日以降に発行の手帳の記入例

A. 個人識別項目	
中央登録番号	—
登録年月日	昭和・平成 年 月 日
フリガナ	カシダ タロウ
氏名	神田 太郎 (男) 女
生年月日	昭和・平成 2000 年 12 月 24 日
放射線管理手帳 発効機関	

承認シール
写真-1

承認シール
写真-2

この手帳は、放射線従事者中央登録センターの承認シールおよび中央登録番号がないと有効になりません。

生年月日は「昭和・平成」12年12月24日」と記入しても良い

変更内容

- ①2019年(平成31年)3月31日以前に新規／継続／再発行の手帳は「和暦」記入のまま使用する。
- ②2019年(平成31年)4月1日以降に新規／継続／再発行の手帳は、「生年月日」を「西暦(年4桁)」で記入する。この際、印刷された「昭和・平成」の文字を二重線で抹消しなくとも良い。
- ③「生年月日」については、「昭和・平成」が印刷された現行手帳を使用する場合に限り、「和暦」、「西暦」のどちらで記入しても良い。(今後販売される「昭和・平成」の印刷のない手帳を使用する場合は「西暦」で記入する。)

D. 個人異動経歴の記入例

※2019年(平成31年)3月31日以前に発行の手帳の記入例

D. 個人異動経歴				
事業所名	入社等		退社等	
	年月日	記入者所属	年月日	記入者所属
日本橋工業(株)横浜工場	29.4.1	横浜工場 総務課	2022.7.30	横浜工場 総務課
(株)室町産業本社	2022.8.1	本社 管理課		

「2022.08.01」または「20220801」と記入しても良い

変更内容
<p>①2019年(平成31年)3月31日以前に新規／継続／再発行の手帳は、2019年(平成31年)3月31日以前の異動事項は、「和暦」で記入し、2019年(平成31年)4月1日以降の事項は、「西暦(年4桁)」で記入する。</p> <p>②2019年(平成31年)4月1日以降に新規／継続／再発行の手帳は、全ての事項(過去の異動も含む)について「西暦(年4桁)」で記入する。</p> <p>③「年月日」は、ドットで区切るか、ドットで区切らない8桁で記入する。(例:「2019.4.1」若しくは「2019.04.01」又は「20190401」)</p>

E. 被ばく前歴の記入例

※2019年(平成31年)4月1日以降に発行の手帳の記入例

E. 被ばく前歴

a. 本手帳発行前年度までの個人線量の記録
(昭和63年度以前) 単位:ミリレム

昭和	平成 60 年 4 月 1 日 ~ 昭和 63 年度 末	200	(10 X)
----	------------------------------	-----	---------

(平成元年度以降) 単位:ミリシーベルト

平成 1989 年 4 月 1 日 ~ 平成 2020 年度 末		58.72 (12 X)	
2017	年度	0.46	(3 X)
2018	年度	0.5	(0 X)
2019	年度	0.2	(2 X)
2020	年度	0.30	(0 X)

上記実効線量の内緊急作業線量	2010 年度	40.4	(0 X)
	2011 年度	12.4	(1 X)
			(X)

b. 本手帳発行後の年度別実効線量
単位:ミリシーベルト

年 度	実 効 線 量
2021 年度	0.31 (5 X)
年度	(X)
年度	(X)
年度	(X)
年度	(X)

従来通り緊急作業線量記入枠を手書きまたはスタンプ等で追加する

変更内容
<p>①「a. 本手帳発行前年度までの個人線量の記録」(昭和 63 年度以前) 「和暦」で記入する。</p>
<p>②「a. (平成元年度以降)」</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 2019 年(平成 31 年)3 月 31 日以前に新規/継続/再発行の手帳は、「和暦」で記入する。 ii. 2019 年(平成 31 年)4 月 1 日以降に新規/継続/再発行の手帳は、全て「西暦(年 4 桁)」で記入する。
<p>③ 「b. 本手帳発行後の年度別実効線量」</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 2018 年度(平成 30 年度)以前の実効線量を記入する場合の年度は「和暦」で記入する。 ii. 2019 年度以降の実効線量を記入する場合の年度は「西暦(年 4 桁)」で記入する。

F. 健康診断および事業者による従事者指定・解除の記入例

※2019年(平成31年)3月31日以前に発行の手帳の記入例

電離放射線健康診断				指定・解除	
年月日	検査項目(注1)	結果(注2)	記入者所属	年月日	事業者・印
29.4.9	A B C D	Y	横浜工業 総務課	指 29.4.9 解 29.9.30	横浜工業 総務課長 (印)
30.12.11	A B C D	Y	横浜工業 総務課	指 30.12.11 解 2019.4.30	横浜工業 総務課長 (印)
2019.6.1	A B C D	Y	横浜工業 総務課	指 2019.6.15 解	横浜工業 総務課長 (印)
				指 解	
				指 解	
				指 解	

「2019.06.01」または「20190601」と記入しても良い

変更内容

- ①2019年(平成31年)3月31日以前に新規/継続/再発行の手帳は、2019年(平成31年)3月31日以前に発生した事項は、「和暦」で記入し、2019年(平成31年)4月1日以降の事項は、「西暦(年4桁)」で記入する。
- ②2019年(平成31年)4月1日以降に新規/継続/再発行の手帳は、全ての事項について「西暦(年4桁)」で記入する。
- ③「年月日」は、ドットで区切るか、ドットで区切らない8桁で記入する。(例:「2019.4.1」若しくは「2019.04.01」又は「20190401」)

G. 被ばく歴および原子力等施設での従事者指定・解除の記入例

※2019年(平成31年)3月31日以前に発行の手帳の記入例

測定期間 年月日	実効線量				施設名	指定・解除 年月日	記入者所属
	暫定値	外部被ばく	内部被ばく (注1)	水晶体 皮膚 その他 組織(注2)			
2019.4.1	0.52	0.52	4/30		神田電	指 31.3.21	横浜工業 総務課
2019.4.30			W		△□	解 2019.4.30	
2019.5.10	0.01	X	5/25		室町電	指 2019.5.10	横浜工業 総務課
2019.5.25			W		凸凹	解 2019.5.25	
2019.6.1		0.45			神田電	指 2019.6.1	横浜工業 総務課
2019.6.30					△□	解	
2019.7.1		X			神田電	指	横浜工業 総務課
2019.7.31					△□	解	
2019.8.1		X			神田電	指	横浜工業 総務課
2019.8.31					△□	解	
2019.9.1		X	9/30		神田電	指	横浜工業 総務課
2019.9.30			W		△□	解	

内部被ばくの日付については「/」で区切って記入する
(例: 10/31)

2019.10.1	0.00	X	10/31		神田電	指	横浜工業 総務課
2019.10.31			W		△□	解 2019.10.31	
2019.11.1 2020.1.9	従事せず					指 解	横浜工業 総務課
2020.1.10		0.6			〇〇電	指 2020.1.10	横浜工業 総務課
2020.1.31					×〇	解	
2020.2.1	0.00	X	2/20		〇〇電	指	横浜工業 総務課
2020.2.20			W		×〇	解 2020.2.20	
2020.3.1	1.37	1.3	3/31		◎◎研	指 2020.3.1	横浜工業 総務課
2020.3.31			W		研究所	解	
						指 解	
平成 2019	年度の実効線量		2.87		(6)		Xミリシーベルト

「2020.03.31」または「20200331」と記入しても良い

変更内容

- ①2019年(平成31年)3月31日以前に新規/継続/再発行の手帳は、2019年(平成31年)3月31日以前に発生した事項は、「和暦」で記入し、2019年(平成31年)4月1日以降の事項は、「西暦(年4桁)」で記入する。
- ②2019年(平成31年)4月1日以降に新規/継続/再発行の手帳は、全ての事項について「西暦(年4桁)」で記入する。
- ③「年月日」は、ドットで区切るか、ドットで区切らない8桁で記入する。(例:「2019.4.1」若しくは「2019.04.01」又は「20190401」)
但し、内部被ばくの日付の記入については、年を省略し、月日を(/)で区切って記入する。
- ④年度合計欄に印刷されている「平成」の文字は二重線で抹消しなくとも良い。

H. 放射線防護教育歴の記入例

※2019年(平成31年)3月31日以前に発行の手帳の記入例

H. 放射線防護教育歴				
実施年月日	実施者(主催者)	教育内容		記入者所属
		科目	対象施設等	
30. 4. 1	横浜工業	a		横浜工業 △△・放管
2019. 4. 2	横浜工業	b	千代田電 △ □	横浜工業 △△・放管
2019. 4. 3 2019. 4. 16	横浜工業	c	千代田電 △ □	横浜工業 △△・放管
2019. 4. 3 2019. 4. 16	横浜工業	d	10日	横浜工業 △△・放管
2019. 4. 17	横浜工業	アイウ(エ)	湘南ケミカル	横浜工業 △△・放管


「2019.04.17」または「20190417」と記入しても良い

変更内容



- ①2019年(平成31年)3月31日以前に新規/継続/再発行の手帳は、2019年(平成31年)3月31日以前に発生した事項は、「和暦」で記入し、2019年(平成31年)4月1日以降の事項は、「西暦(年4桁)」で記入する。
- ②2019年(平成31年)4月1日以降に新規/継続/再発行の手帳は、全ての事項について「西暦(年4桁)」で記入する。
- ③「年月日」は、ドットで区切るか、ドットで区切らない8桁で記入する。(例:「2019.4.1」若しくは「2019.04.01」又は「20190401」)

I. 備考の記入例

※2019年(平成31年)3月31日以前に発行の手帳の記入例



I. 備 考

1)	(注1) 30. 6. 5	施設名「横浜電口」 を「湘南電△」に修正	横浜工業 総務課 	7)	
2)	(注2) 2019. 6. 18	年月日「6/14」を 「6/15」に修正	横浜工業 総務課 	8)	
3)				9)	
4)				10)	
5)				11)	
6)				12)	


「2019. 06. 18」「20190618」と記入しても良い

変更内容
<p>①2019年(平成31年)3月31日以前に新規／継続／再発行の手帳は、2019年(平成31年)3月31日以前に発生した事項は、「和暦」で記入し、2019年(平成31年)4月1日以降の事項は、「西暦(年4桁)」で記入する。</p>
<p>②2019年(平成31年)4月1日以降に新規／継続／再発行の手帳は、全ての事項について「西暦(年4桁)」で記入する。</p>
<p>③「年月日」は、ドットで区切るか、ドットで区切らない8桁で記入する。(例:「2019.4.1」若しくは「2019.04.01」又は「20190401」)</p>

3. 自動記帳機による放射線管理手帳の記入方法

A. 個人識別項目の記入例

※2019年(平成31年)4月1日以降に発行の手帳の記入例

 A. 個人識別項目		承認シール
中央登録番号	—	写真-1
登録年月日	昭和・平成 年 月 日	
フリガナ	カ ン タ タ ロ ウ	承認シール
氏 名	神 田 太 朗 (男) 女	
生年月日	昭和・平成 2000 年 12 月 24 日	写真-2
放射線管理手帳 発効機関		

この手帳は、放射線従事者中央登録センターの承認シールおよび中央登録番号がないと有効になりません。

生年月日は「昭和 (平成) 12年12月24日」と記入しても良い

変更内容

- ①2019年(平成31年)3月31日以前に新規／継続／再発行の手帳は「和暦」記入のまま使用する。
- ②2019年(平成31年)4月1日以降に新規／継続／再発行の手帳は、「生年月日」を「西暦(年4桁)」で年を記入する。この際、印刷された「昭和・平成」の文字を二重線で抹消しなくとも良い。
- ③「生年月日」については、「昭和・平成」が印刷された現行手帳を使用する場合に限り、「和暦」、「西暦」のどちらで記入しても良い。(今後販売される「昭和・平成」が印刷されない手帳を使用する場合は西暦で記入する。)
- ④ ①、②に関わらず自動記帳機の場合、2019年(平成31年)4月1～30日に新規／継続／再発行の手帳は「和暦」、「西暦」のどちらで記入しても良い。

D. 個人異動経歴の記入例

※2019年(平成31年)3月31日以前に発行の手帳の記入例

D. 個人異動経歴				
事業所名	入社等		退社等	
	年月日	記入者所属	年月日	記入者所属
日本橋工業(株)横浜工場	29. 4. 1	横浜工場 総務課	31. 3. 29	横浜工場 総務課
(株)室町産業本社	20190401	本社 管理課		

2019年4月1日から30日までの記入については「和暦」「西暦」どちらで記入しても良い

変更内容
<p>①2019年(平成31年)3月31日以前に新規／継続／再発行の手帳は、2019年(平成31年)3月31日以前の異動事項は、「和暦」で記入し、2019年(平成31年)4月1日以降の事項は、「西暦(年4桁)」で記入する。</p> <p>②2019年(平成31年)4月1日以降に新規／継続／再発行の手帳は、全ての事項(過去の異動も含む)について「西暦(年4桁)」で記入する。</p> <p>③「年月日」は、ドットで区切るか、ドットで区切らない8桁で記入する。(例:「2019. 4. 1」若しくは「2019. 04. 01」又は「20190401」)</p> <p>④ ①、②に関わらず自動記帳機の場合、2019年(平成31年)4月1～30日の発生事項は「和暦」、「西暦」のどちらで記入しても良い。</p>

E. 被ばく前歴の記入例

※2019年(平成31年)4月1日以降に発行の手帳の記入例

「昭和・平1985年」と
記入しても良い。

E. 被ばく前歴

a. 本手帳発行前年度までの個人線量の記録
(昭和63年度以前) 単位:ミリレム

昭和 平成60年 4月 1日 ~ 昭和63年度末	200 (10 X)
--------------------------	--------------

(平成元年度以降) 単位:ミリシーベルト

平成989年 4月 1日 ~ 平成2018年度末	
58.72 (12 X)	
2015年度	0.46 (3 X)
2016年度	0.5 (0 X)
2017年度	0.2 (2 X)
2018年度	0.30 (0 X)

上記実効線量 の内緊急作業 線量	2010年度	40.4 (0 X)
	2011年度	12.4 (1 X)

b. 本手帳発行後の年度別実効線量
単位:ミリシーベルト

年 度	実 効 線 量
2019年度	1.1 (1 X)
年度	(X)
年度	(X)
年度	(X)
年度	(X)
年度	(X)

従来通り緊急作業線量記
入枠を手書きまたはスタ
ンプ等で追加する

変更内容

- ①「a. 本手帳発行前年度までの個人線量の記録」(昭和63年度以前)

「和暦」「西暦(年4桁)」どちらで記入しても良い。西暦記入の際、一部が印刷の「平成」の文字に重っても差し支えない。
- ②「a. (平成元年度以降)」
 - i. 2019年(平成31年)3月31日以前に新規/継続/再発行の手帳は、「和暦」で記入する。
 - ii. 2019年(平成31年)4月1日以降に新規/継続/再発行の手帳は、全て「西暦(年4桁)」で記入する。
 - iii. 「西暦(年4桁)」で記入する際、一部が印刷の「平成」の文字に重っても差し支えない。
- ③「b. 本手帳発行後の年度別実効線量」
 - i. 2018年度(平成30年)以前の実効線量を記入する場合の年度は「和暦」「西暦(年4桁)」のどちらで記入しても良い。
 - ii. 2019年度以降の実効線量を記入する場合の年度は「西暦(年4桁)」で記入する。

F. 健康診断および事業者による従事者指定・解除の記入例

※2019年(平成31年)3月31日以前に発行の手帳の記入例

電離放射線健康診断				指 定 ・ 解 除	
年 月 日	検査項目(注1)	結 果(注2)	記入者所属	年 月 日	事 業 者 ・ 印
29. 4. 9	A B C D	Y	横浜工業 総務部	指29. 4. 9 解29. 9. 30	横浜工業 総務部長 (印)
30. 12. 11	A B C D	Y	横浜工業 総務部	指30. 12. 11 解20190430	横浜工業 総務部長 (印)
20190521	A B C D	Y	横浜工業 総務部	指20190601 解	横浜工業 総務部長 (印)
				指 解	
				指 解	
				指 解	

2019年4月1日から30日までの
記入については「和暦」「西暦」ど
ちらで記入しても良い

変更内容
①2019年(平成31年)3月31日以前に新規／継続／再発行の手帳は、2019年(平成31年)3月31日以前に発生した事項は、「和暦」で記入し、2019年(平成31年)4月1日以降の事項は、「西暦(年4桁)」で記入する。
②2019年(平成31年)4月1日以降に新規／継続／再発行の手帳は、全ての事項について「西暦(年4桁)」で記入する。
③「年月日」は、ドットで区切るか、ドットで区切らない8桁で記入する。(例:「2019. 4. 1」若しくは「2019. 04. 01」又は「20190401」)
④ ①、②に関わらず自動記帳機の場合、2019年(平成31年)4月1～30日の発生事項は「和暦」、「西暦」のどちらで記入しても良い。

G. 被ばく歴および原子力等施設での従事者指定・解除の記入例

※2019年(平成31年)3月31日以前に発行の手帳の記入例

測定期間 年月日	実効線量					施設名	指定・解除 年月日	記入者所属
	暫定値	外部被ばく	内部被ばく (注1)	水晶体 皮膚	その他の 組織(注2)			
20190401	0.52	0.52	4/30			神田電	指31.3.21	横浜工業
20190430			W			△□	解20190430	総務課
20190510	0.01	X	5/25			室町電	指20190510	横浜工業
20190525			W			凸凹	解20190525	総務課
20190601						神田電	指20190601	横浜工業
20190630						△□	解	総務課
20190701		X				神田電	指	横浜工業
20190731						△□	解	総務課
20190801		X				神田電	指	横浜工業
20190831						△□	解	総務課
20190901		X	9/30			神田電	指	横浜工業
20190930			W			△□	解	総務課

2019年4月1日
から30日までの
記入については
「和暦」「西暦」
どちらで記入し
ても良い

内部被ばくの日
付については
「/」で区切っ
て記入する
(例:10/31)

20191001		X	10/31			神田電	指	横浜工業
20191031			W			△□	解20191031	総務課
20191101	従事せず						指	横浜工業
20200109							解	総務課
20200110						〇〇電	指20200110	横浜工業
20200131						×〇	解	総務課
20200201			2/20			〇〇電	指	横浜工業
20200220			W			×〇	解20200220	総務課
20200301			3/31			◎◎研	指20200301	横浜工業
20200331			W			研究所	解	総務課
							指	
							解	
平成 2019 年度の実効線量 2.87 (6 X)ミリシーベルト								

変更内容

- ①2019年(平成31年)3月31日以前に新規/継続/再発行の手帳は、2019年(平成31年)3月31日以前に発生した事項は、「和暦」で記入し、2019年(平成31年)4月1日以降の事項は、「西暦(年4桁)」で記入する。
- ②2019年(平成31年)4月1日以降に新規/継続/再発行の手帳は、全ての事項について「西暦(年4桁)」で記入する。
- ③「年月日」は、ドットで区切るか、ドットで区切らない8桁で記入する。(例:「2019.4.1」若しくは「2019.04.01」又は「20190401」)
但し、内部被ばくの日付の記入については、年を省略し、月日を(/)で区切って記入する。
- ④年度合計欄に印刷されている「平成」の文字は二重線で抹消しなくとも良い。
- ⑤ ①、②に関わらず自動記帳機の場合、2019年(平成31年)4月1~30日の発生事項(2019年3月分や年度合計など)は「和暦」、「西暦」のどちらで記入しても良い。

H. 放射線防護教育歴の記入例

※2019年(平成31年)3月31日以前に発行の手帳の記入例

H. 放射線防護教育歴				
実施年月日	実施者(主催者)	教育内容		記入者所属
		科目	対象施設等	
30. 4. 1	横浜工業	a		横浜工業
20190402	横浜工業	b	千代田電 △□	横浜工業
20190403	横浜工業	c	10日	横浜工業
20190510 20190526	横浜工業	d	千代田電 △□	横浜工業
20190527	横浜工業	アイウ(エ)	湘南ケミカル	横浜工業





2019年4月1日から30日までの記入については「和暦」「西暦」どちらで記入しても良い

変更内容

- ①2019年(平成31年)3月31日以前に新規/継続/再発行の手帳は、2019年(平成31年)3月31日以前に発生した事項は、「和暦」で記入し、2019年(平成31年)4月1日以降の事項は、「西暦(年4桁)」で記入する。
- ②2019年(平成31年)4月1日以降に新規/継続/再発行の手帳は、全ての事項について「西暦(年4桁)」で記入する。
- ③「年月日」は、ドットで区切るか、ドットで区切らない8桁で記入する。(例:「2019. 4. 1」若しくは「2019. 04. 01」又は「20190401」)
- ④ ①、②に関わらず自動記帳機の場合、2019年(平成31年)4月1～30日の発生事項は「和暦」、「西暦」のどちらで記入しても良い。

I. 備考の記入例

※2019年(平成31年)3月31日以前に発行の手帳の記入例

 <h3 style="text-align: center;">I. 備 考</h3>			
1) 30.6.5	(注1) 施設名「横浜電口」を「湘南電△」に修正	横浜工業 総務課 	7)
2) 20190418	(注2) 年月日「4/14」を「4/15」に修正	横浜工業 総務課 	8)
3) 20190515	(注3) 誤記入のため訂正	横浜工業 総務課 	9)
4)			10)
5)			11)
6)			12)

2019年4月1日から30日までの記入については「和暦」「西暦」どちらで記入しても良い

変更内容
①2019年(平成31年)3月31日以前に新規／継続／再発行の手帳は、2019年(平成31年)3月31日以前に発生した事項は、「和暦」で記入し、2019年(平成31年)4月1日以降の事項は、「西暦(年4桁)」で記入する。
②2019年(平成31年)4月1日以降に新規／継続／再発行の手帳は、全ての事項について「西暦(年4桁)」で記入する。
③「年月日」は、ドットで区切るか、ドットで区切らない8桁で記入する。(例:「2019. 4. 1」若しくは「2019. 04. 01」又は「20190401」)
④ ①、②に関わらず自動記帳機の場合、2019年(平成31年)4月1～30日の発生事項は「和暦」、「西暦」のどちらで記入しても良い。